

発表内容の概要



伊藤 利洋 (いとう としひろ) 氏
奈良県立医科大学 免疫学講座 教授
MBT研究所 教授

演題

カキタンニンによる
新型コロナウイルスの不活化（無害化）

【概要】

新型コロナウイルス感染に対する予防・拡大防止策が世界的な課題になっているなか、カキタンニン（柿渋）が新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に対して有効であることを発見し、実験的に証明した。新型コロナウイルス感染症の現状と、医療におけるカキタンニン（柿渋）の有効性・可能性について話題提供する。あわせて新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）をはじめとした感染症に対するカキタンニン（柿渋）を用いた製品開発に向けた企業との取り組みについて紹介する。



松尾 友明 (まつお ともあき) 氏
柿渋・カキタンニン研究会 会長
鹿児島大学名誉教授 農学博士

演題

柿渋・カキタンニンの多様な特性と
産業素材としての魅力、その先には！

【概要】

渋柿の渋み成分（カキタンニン）を高濃度に含む「柿渋」は数百年にわたって、日本人の生活全て、すなわち衣食住および治療などに利用されてきた。カキタンニンは特異な化学構造を持つ、天然高分子化合物であり、多様な特性を示し、興味深い産業素材と見ることが出来る。高い抗酸化能を持つとともにタンパク質、アルカロイド、重金属イオン、ホウ酸イオン、悪臭成分などに高い親和性を示すことが知られており、今まで多種多様な分野で利用され、また、新規用途開発が検討されている。現在までの利活用と課題点を解説し、今後の可能性について話題提供する。